

地域課題の解決に向けた取組

林業のコスト縮減に向けて 低コスト作業の実践と普及

網走西部森林管理署

1. 網走西部流域の現状と 取り組みの背景

網走西部流域における人工林面積は、約15万haで全森林面積の約37%を占めており、このうちの多くが主伐期を迎える8〜10齢級（36年生〜50年生）以上の林分となっております。

また、当流域は、大企業の所有林も多いことから先進的な林業機械の導入が進んでおり、全道の高性能林業機械の約20%（約160台）を保有しているほか、豊富な森林資源を背景として、多くの製材工場やバイオマス関連施設が立地し、大規模な林業経営が行われている地域です。

しかし、森林整備における作業コストの抑制が難しいことなどから、植栽等による伐採跡地の更新が行われない造林未済地が約1,100haとなっております。今後の持続可

能な森林経営に加え、林業の成長産業化を実現していくためには、伐採、搬出などの作業コストや地拵え、植付などの初期投資や労務量をいかに低減していくかが大きな課題となっております。

2. 低コスト作業の普及・啓発に向けて

このため、低コスト作業に対する理解の向上と普及に向けて、昨年9月に当署管内のフィールドを活用し、遠軽町丸瀬布国有林において「民有林・国有林森林施業技術交流会」を開催しました。

この技術交流会には、地元近隣市町、森林組合、林業関係事業者、オホーツク総合振興局などの民有林と国有林の関係者約70名が参加し、今年度から全道的に取組を進めている、伐採・造林一貫作業（伐採から造林までを一連の工程として行うこと）等について

情報提供や意見交換を実施しました。



民・国森林施業検討会の様子

参加者から「再造林コストの低減は重要な課題であり、発注方法も含めて検討したい」（森林組合）、「事業発注に向けて具体的な方法を教えて欲しい」（建設業関係者）などの積極的な意見も多く出され、民有林関係者に対して低コスト作業等に対する理解の醸成を図ることができました。

3. 地域の民有林における 低コスト作業の導入

また、民有林支援の一環として、伐採・造林一貫作業の導入に向けてオホーツク総合振興局と連携して取り組んでいます。

その一例は、効率的な事業展開を図ることを目的として、今年度新たに民有林に設定したモデルエリア内で、地域関係者の協力を受けて再造林などの森林整備等を推進していくというものです。

具体的な支援の内容としては、オホーツク総合振興局管内のモデルエリアの設定にあたり、当署や民有林の作業予定地において、国有林が実践している伐採・造林一貫作業の概要を説明しました。



民有林のモデルエリア設定に係る
現地確認の様子

さらに、当該作業において得られる間接作業コストの低減や作業工程の改善及び造林作業の労務量軽減などのメリットの説明ほか、急傾斜地などにおいては重機の活用が難しいことから、現地状況によ

っては作業工程の改善等が見込めない場合があるなどのデメリットについても、助言したところ、熱心に聞いていただき、実際に伐採・造林一貫作業に取り組まれました。

4. 今後に向けて

今後も、効率的な森林施業の実施等に努めつつ、そこから得られたデータを民有林等へ情報共有していくとともに、地域の関係者と連携する中で、地域の課題を的確に把握した取組を実践し、オホーツク西部流域における「林業の成長産業化」に貢献していけるよう努めていきたいと考えているところです。



民有林との情報交換の様子